

## 第3回 第5次亶理町総合発展計画審議会

### 議事概要

#### 開催概要

日 時：令和2年12月17日（木） 13：25～14：40

場 所：亶理町役場 1階 小会議室

出席者：

No.	役職等	氏 名	出欠
1	尚綱学院大学 総合人間科学系 特任教授	見上 一幸	出席
2	亶理町教育委員会委員教育長職務代行者	佐藤 正行	出席
3	亶理山元商工会長	門澤 俊夫	出席
4	みやぎ亶理農業協同組合代表理事組合長	村山 裕一	出席
5	宮城県漁業協同組合仙南支所亶理運営委員長	菊地 幹彦	出席
6	前子ども・子育て支援審議会議長	志賀 力	出席
7	亶理町区長会長	高野 治夫	出席
8	吉田西部地区まちづくり協議会長	鈴木 達朗	出席
9	亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会委員	佐藤 徳美	欠席
10	尚綱学院大学 学生	湯村 綾佳	出席
11	尚綱学院大学 学生	武田 寧々	出席

※委員11名中、10名出席

事務局：

所 属		氏 名
亶理町企画課	課長	齋 義弘
	専門官	千葉 文彦
	企画班兼情報政策班 班長	齋 正幸
	企画班 副班長	太田 幸子
	企画班 副班長	布田 秀一
	企画班 主事	大堀 淳

事務局補助：

企業名	氏 名
国際航業株式会社	増戸 保明
	山部 義浩

配布資料：

- ① 次第、審議会委員名簿
- ② 【資料1】第5次亙理町総合発展計画後期基本計画（案）
- ③ 【資料2】第2回審議会意見と対応方針
- ④ 【資料3】第5次亙理町総合発展計画 後期基本計画（案）等の意見募集結果について
- ⑤ 【参考資料1】「亙理町国土強靱化地域計画（案）」の概要

資料全て：当日配布

## 議事概要

### 1. 開会

○齋班長が開会を宣言し、進行を行った。

### 2. あいさつ

○見上会長より、「どうも皆様こんにちは。コロナ禍がなかなか静まりませんが年末の大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今回で第3回の審議会となりますけれども本日はいよいよまとめの最終段階となります。どうぞ本日も活発なご意見頂戴しまして、スムーズな進行のご協力をよろしくお願いいたします。」とあいさつがあった。

### 3. 協議

○亙理町総合発展計画審議会条例（以下「条例」という。）第5条の3に基づき、これ以降の進行は見上会長が行った。

○会長が、本日は委員11名中10名が出席していることから、条例6条の2に基づき、会議が成立したことを報告した。

#### (1) 第5次亙理町総合発展計画後期基本計画（案）

○事務局の布田副班長が、配布資料の過不足について確認した。

○布田副班長が、今後のスケジュールについて説明を行った。本日、第3回の審議会は概要の最終確認として、本日までいただいた意見を反映させることとする。また、本日の説明後、審議会による承認が得られれば、会議終了後町長への答申も行う予定である。町長への答申は会長と副会長に行っていただく。答申後、文言含めた最終確認を事務局で行い、3月議会定例会に上程し、議会の承認後、4月から計画スタートとなる。

○布田副班長が、「資料1 第5次亙理町総合発展計画後期基本計画（案）」、「資料2 第2回審議会意見と対応方針」に基づき、計画の見直し内容について説明した。「資料3 第5次亙理町総合発展計画 後期基本計画（案）等の意見募集結果について」に基づき、パブリックコメントでの意見と町の考え（案）について説明した。

見上会長：

事務局からの資料を基にご説明をいただきました。この審議会でご指摘いただいた意見とパブリックコメントでいただいた意見を、計画にどう取り入れたのか、町の考えをまとめていただきました。また、資料2のno.20がP4からP6になるという訂正がございました。ご確認ください。それでは、「資料1 第5次亘理町総合発展計画後期基本計画（案）」、「資料2 第2回審議会意見と対応方針」に関して、ご質問やご意見をお願いいたします。

門澤委員：

資料1の16P(3)観光拠点の整備充実について、鳥の海スマートICの敷地内もしくは敷地外すぐのところに地場製品の販売を中心とした農業施設の検討の話が数年前に出ました。賛否が分かれ、話は進まなかったですが、常磐道片側2車線になった今、鳥の海スマートIC内では大規模改修工事が行われていて、状況もだいぶ変わったことから、その検討をまた始めようと考えています。そのことについては計画に盛り込まれているのでしょうか。

事務局 齋(義)：

16P(3)観光拠点の整備充実ではそのような農業施設に関する記載はありませんが、14P③で観光・交流拠点について観光商業機能の充実について記載しています。

見上会長：

東北地方全体を見渡すと道の駅が非常にたくさん出来ていて、どこも大変賑わっている印象です。その地場製品の販売施設は「海の道の駅」のようなイメージをお考えでしょうか。

事務局 齋(義)：

はい、そのようなイメージです。

湯村委員：

資料3のNo15の沿岸部の空き地の活用については、キャンプ及びグランピングを楽しめる施設があればというご意見に関して、コロナ禍で屋内よりも自然の中の空間に人々の需要が移っている状況ことを考えると、若い人にとっては魅力的に感じる事だと思います。

武田委員：

資料3のNo9の学校教育の充実に関するご意見のところ、私自身、コロナウイルスの関係で就職活動に影響がありましたが、社会の変化に強い人がこれからの時代の流れに対応出来る人だと感じています。

見上会長：

はい、そういった是非若い人達の意見も取り入れていただければと思います。

鈴木委員：

資料1の45P⑧の、町民をはじめ訪れる方々に防災意識の向上を図ることについて、亘理町役場に庁舎にパネル展示などをしていただいた方がより東日本大震災の教訓としてわかりやすいのではないかと思います。他の被災を受けた自治体、例えば、宮古市役所には震災に関する素晴らしい展示物がありました。亘理町は新しい庁舎が出来ましたがおそらく展示はどこにもないと思います。予算の問題があるかもし

れませんが、展示があるだけでも印象が違おうと思うので検討していただきたいです。

事務局 齋(義) :

おっしゃる通り新しい庁舎にはそのようなコーナーはありませんが、荒浜の交流センターの入口付近に震災時や現在に至るまでの写真などの記録を展示しています。町役場もせっかく新しくなりましたのでこちらでの設置も今後検討させていただきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

見上会長 :

震災関係の施設はこれまで色々な地域・被災地に出来てきました。例えば、環境省が考えたナショナル・トレイルは青森県から 1,000 km ありますが南は名取付近で止まっています。こういったものも、うまく取り込められれば、鳥の海あたりまで遊歩道が出来て全国的なアピールになるのではないかと思います。自然を生かしながら震災も忘れない提案になると思います。

志賀委員 :

この計画は、資料 1 の 1P にもあるように SDGs の考え方に基づいて新しい計画を策定しているものと考えています。その中で、地域との関係もあるので、学校再編は重要な事項だと感じます。もし学校がなくなるということであれば、そこを卒業した人の抛り所がなくなることだと思うので、広く意見を聞いた方がいいのではないのでしょうか。もうひとつ、学校教育の充実に関しては、保育所・幼稚園を担当する部署である、子ども未来課と関係する部分も大きいと思います。縦割り行政と言われませんか、基本的な考えを教えて欲しいですし、もう少し議論が必要になるのではないかと思います。関連して、東日本大震災の津波の際、荒浜保育所から荒浜中学校に避難したことで、そういったものは記念碑にはならないですが、一方で宮城県では大川小学校の事例は話題によく挙げられているので、共通して「こどもを守る」考え方があった成功事例、失敗事例として語り継ぐべきものと考えています。また、学校教育福祉や地域教育の考えも意識された計画にさせていただけると嬉しいです。

鈴木副会長 :

学校再編に関してですが、12月の広報で別途アンケート調査が行われる予定になっています。亘理町の10年後、将来像を見据えた時に、子どもがどのくらい減りそうなのか、半減した場合には学校は今のままがいいのか、そういった内容をアンケートするようになっていきますのでそれを見ていただきたいと思います。また、18Pの学校再編の記載がありますが、急に出てくると驚かれるかもしれないので、理由などの記載も含めて、教育総務課と相談の上表現等を修正してはどうかと思います。

事務局 齋(義) :

将来子どもが減少することについて教育委員会でも把握はしていて、計画に記載することは簡単ですが、地域や保護者の声や意見を色々聞いて、参考にしながら計画に表現することが教育委員会としても重要と考え、アンケートを準備しています。「学校再編」についてですが、この言葉には「学校の統廃合」の意味も含めた表現にしており、「学校再編」の方が「学校統廃合」より適切ではないかと考え、表現しています。

見上会長：

教育に関する議論はかなり広範になります。また、教育関係の部局あるいは教育委員会でアンケートを進めている話もありますので、教育再編という言葉が誤解を招かないように、今後相談して表現を工夫していただくようにしてもらおうことでどうでしょうか。

私から、教育関係者として二点申し上げたいことがあります。ひとつは、学習指導要領が新しくなり大きく変わったことです。「持続可能な社会の作り手を育てる」ということが柱になっていて、前文、総則も付いていますが、大きな市の教育委員会でもまだ浸透していないように感じています。SDGs を亶理町も抑えているということがアピールになればと思います。

もうひとつは、パブリックコメントにもありました、オンライン教育に関してですが、コロナ禍で大変注目されるようになりました。国が考えた「ギガスクール構想」という、生徒 1 人に対して PC1 台といったものがありますが、市町村の今一番の問題はネットワーク環境がなかなか整備されていないことです。全国的には、東北地方はネットワーク環境の整備状況が遅れている方なので、亶理町がそこで特徴を出せると他の市町村から抜きん出ることと思います。

ご意見も出揃いましたので、あとは改めて事務局で意見を精査していただいて、若干の修正をして、町長への答申としてまとめていただこうと思います。文言や表現については事務局にお任せすることにします。

○会長が、第 5 次亶理町総合発展計画後期基本計画（案）の審議会の承認を確認した。

## (2) 亶理町国土強靱化地域計画（案）

○太田副班長が、「参考資料 1 亶理町国土強靱化地域計画（案）」に基づき、国土強靱化地域計画の基本的な考え方と策定方針、スケジュールについて説明した。

見上会長：

事務局から資料を基にご説明をいただきました。皆様からご意見などありましたらお願いいたします。

村山委員：

海岸の防風林に関して国土強靱化地域計画で記載はありますか。

事務局 齋(義)：

計画の土地利用の部分で東日本大震災の津波で浸水した海岸防災林の再生について記載をしています。

志賀委員：

昭和 16 年の阿武隈川の決壊等、亶理町がどのような災害にあったかの記載がありますか。また、地域避難場所、避難所の需要があると思うので、記載があるとありがたいです。

高野委員：

地域の小学校、中学校の校長先生などが臨機応変に避難や避難場所について話を現在進めている状況です。

見上会長：

国土強靱化地域計画はどのような災害を受けやすいかということをチェックして、評価して、それに対する対策ということになっていると思います。海面上昇や強力な台風などの想定外のことを考えていただきながら策定を進めていただければと思います。

#### 4. その他

○大堀主事が、「新しいまち・ひと・しごと創生総合戦略は令和3年度にスタートしますが、引き続き産業振興、交流人口、子育て支援になる KPI（重要業績指標）の進捗を来年度報告する場を設けさせていただき予定になっていますので改めてご連絡します。」と審議会委員に伝達した。

#### 5. 閉会

○鈴木副会長が、「3回にわたった審議会で99.9%の内容になりました。残りの0.1%は文言の修正ということでこれから事務局に修正していただきますが、素晴らしい発展計画の内容になりました。ご苦労様でした。以上で審議会終了となります。ありがとうございました。」とあいさつし、第3回審議会を閉会した。（14：40 閉会。）